柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話：070-1503-6401/044-988-0004
http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo
第 192 号

臼井義胤翁を訪ねて 13

遠い先祖の恩人を思い浮かべて

小林 基男（柿生郷土史料館専門委員）

岩戸胤安と阿多津

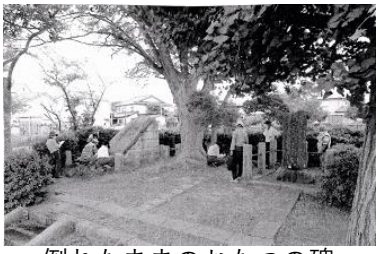
義胤翁が、幼い竹若（後の 6 代臼井家城主、臼井興胤）の生命の危機を救った恩人として、その功績を何としても後世に伝えたいと考えた二人とは、臼井一族に連なる岩戸城主、岩戸胤安と竹若の乳母の二人です。

岩戸胤安碑（西福寺）

岩戸胤安墓（円応寺）

岩戸胤安の名は、彼が竹若を預けた鎌倉建長寺の記録に残っておりますので、確認できるのですが、彼と同じく竹若の生命の恩人である乳母については、その名は不明です。時代は鎌倉幕府の衰退期です。鎌倉時代の女性の名は、何が正しいか分からないことが殆どです。頼朝の妻は政子と言われていますが、彼女が政子を名乗ったのは、鎌倉殿としての頼朝の地位が盤石となり、妻である彼女にも京都の朝廷から官位が授けられることになった時、初めて政子と記されたことが、明らかになっているのです。高位の女性ですらこうなのですから、召使の女性の名というのは無きにひとしかったのです。当然、彼女が顔見知りとはいえ、岩戸領を差配する有力武将の胤安に、幼少の若君の危難を伝えた時も、「竹若様のお世話をしている者です。…」と名乗って、胤氏の逆心と若君の生命の危機を伝えたのでしょう。胤安が乳母の名を知ること、彼女の名を誰かに告げることもありえません。

熱心なキリスト教徒からは、この不信心者と叱られるでしょうが、イエスの母はマリアで通っています。イエスが神の子と伝承されたのは、12 使徒と言われるイエスの弟子たちの創作です。蘇ったとされるイエスに会ったとされる女性もマグダラのマリアとされます。当時のガリラヤ地方に多くあった女性の名がマリアだったところから、新約聖書のイエス伝には、マリアの名が多く使われ、イエスの母もマリアになったと考えられます。竹若の乳母がおたつ（漢字を充てると阿多津）と名付けられたのも、当時の北総地方で多かった女性の名前から、事後につけられたとご理解ください。幼少の若君を助けたい一心で、自らの生命を落とすことになった忠義の女性の一途さを、里人たちが憐れんで、彼女が誅殺された芦原に小さな祠を建て、彼女の霊を慰めると共に、祠をおたつ様と名付けて保存したことから、乳母はおたつと呼ばれるようになったと思われます。



倒れたままのおたつの碑

おたつの小祠

義胤翁は、岩戸胤安と阿多津の功績を顕彰し、後世に残すことを自分の最後の使命と感じ、二人の碑を建立することを決意したのです。岩戸胤安の顕彰碑は彼の墓のある西福寺に建てることが可能ですが、阿多津には里人たちが建てた路傍の小さな祠しかありません。しかもその場所は足場の悪い芦原です。義胤翁は、阿多津の祠がある芦原一帯を買い取って、この地を干拓、自らの住居も一時的に臼井町に移し、千葉県庁に何度も足を運んで臼井の地に、何とかして阿多津の碑を建てたい、彼女は臼井第 6 代城主の恩人であると力説したのです。体力の衰えを自覚し、余命が長くないことを自覚していた義胤翁は、千葉県庁と交渉を続けながら、鎌倉建長寺の菅原時保管主に依頼して、まずは岩戸胤安の顕彰碑を西福寺に建てました。1928 年（昭和 3 年）10 月のことでした。さらに臼井家中興の祖、6 代興胤が建立した円応寺に、忠臣岩戸胤安の墓と記した墓石も建てました。こうして阿多津の碑の建立だけが残されたのです。翁は、阿多津が誅殺されたとされる芦原、里人が彼女を憐れんで建立した小祠が、いつ頃からか咳止め石として信仰されるようになって、今日に至っていることも告げ、最後は自費で造成した芦原を、臼井町と千葉県に公園として無償譲渡すると約束して、ようやく建立許可をとりつけたのです。阿多津の碑は、1929 年（昭和 4 年）3 月に建立されました。翁は碑の建立を見届け、同年 5 月 85 歳の生涯を閉じたのです。

追記　阿多津の碑は、印旛沼の洪水で倒れ、石碑が倒れて割れているため、無理に復元しようとすると、完全に割れてしまう危険が高いため、修復せずに倒れた状態のまま保存されています。

続く

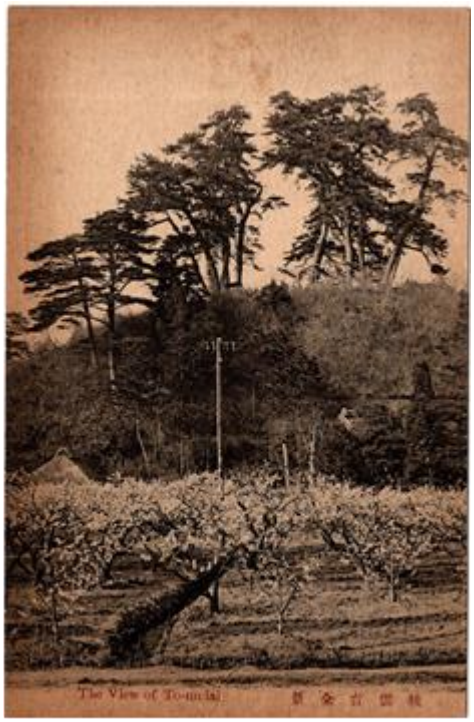
シリーズ
禅寺丸柿の歴史 2

近代における川崎市域及び横浜市北部地域での果樹栽培(2)

相澤雅雄(都筑・橘樹研究会会員)

川崎市域での梨・桃栽培

江戸時代後期に川崎大師周辺では、梨の栽培が盛んであった。さらに明治に入ると大師河原村の當麻長十郎が発見した長十郎梨が各地に栽植され市場で好評を博した。その川崎の梨を俳人正岡子規が「梨実　川崎や梨を喰ひ居る旅の人」と詠んでいる(『子規全集　第二巻』)。また『武蔵地名句集』(天心社)には、「川崎や畑は梨子の帰り花　子規」を収める。このように近代に梨栽培が盛んであった川崎大師界隈の往時を、詩趣に富んだ俳句を通して文芸面から偲ぶことができる。同様に桃の栽培が盛んであったことは、地誌から知れる。例えば天保 5～7 年(1834～1836)刊の『江戸名所図会』巻の二に「洲河原桃林」として「河崎渡口より大師河原までの間にして、田園悉く桃樹を栽えたり、故に開花の時に至れば紅白色を交えて奇観たり」と、また『江戸めぐり』(内題は『江都近郊名勝一覧』。安政 5 年(1858)再版本)には、江戸近郊の川崎宿周辺の名勝として厄除大師(川崎大師)、塩浜(川崎区塩浜)などとともに「洲河原桃林」が「大師河原の田園を悉く桃を植えたり　開花の頃は紅白杖を交えて実に一時の奇譚たり」と紹介している。大師河原一帯に広がる桃林で桃の花が咲くと、まるで桃源郷のような珍しい光景をみせたと説明している。江戸の人々は、辺り一面に桃色の絨毯を敷いたような風景を見ようと足を運んだ。賑やかな声が聞こえてくるようだ。更にみずみずしく甘く実った桃は、多くの江戸の人々が賞味したことであろう。



絵葉書「南綱島の桃畑」　筆者蔵

川崎市域における桃の栽培地は、明治 30 年(1897)頃に御幸村に、同 33 年頃になると日吉村・住吉村・中原村方面へと多摩川沿いを北上していった。昭和初期には、肥沃な土地に恵まれた高津方面で桃の栽培が導入され一段と盛んとなった。さらに宿河原や登戸方面でも栽培熱が高まり栽培地が急激に広まっていった。

大正 13 年(1924)頃から昭和にかけてブランド「多摩川桃」としての産地が形成され、東京市場では独占的な地位を占めるに至ったという。桃の種類には、早生種は日月桃・天津水蜜桃・大正早生、中生種は伝十郎・早生水蜜桃・土用水蜜桃、晩生種は上海水蜜桃などといった良種が知られていた。

南綱島での桃栽培

一方、鶴見川中流域の橘樹郡大綱村南綱島(東横線綱島駅周辺)にも桃の栽培が導入された。そもそも明治 30 年頃に大師河原村からクワイの苗を売りに来た人が南綱島の池谷道太郎に桃の栽培を勧めたことから、始められたという。同 36 年(1903)に南綱島の池谷道太郎は、上平間の田島健蔵の斡旋で苗木 50 本を購入し、同 37 年には小向より苗木 100 本を、大師河原の伊藤市郎兵衛からは早生水蜜桃 300 本を購入し、本格的な桃栽培に取り組んだ。努力の甲斐があって、池谷道太郎は肉質が柔軟で甘味が多い新種の日月桃を発見した。この日月桃は、6 月 20 日頃から熟期に入り 7 月上旬まで成果するという早生であった。同 43 年(1910)には、綱島果樹園芸組合を組織して、神田市場へ出荷する一方で、銀座の千疋屋・新宿高野などに販売し、全国的に名声をあげたという。しかし、太平洋戦争で桃樹は伐採され、跡地を食糧増産のため米・麦への転作を余儀なくされた。さらに致命傷となったのが昭和 13 年(1938)6 月～7 月に襲った大豪雨で鶴見川は大氾濫し、収穫直前の桃は水没し壊滅的な大打撃を受けてしまった。この氾濫を契機に桃栽培農家は、次々と栽培を断念していった。以後綱島での桃栽培は衰退の一途をたどってしまった(『港北百話＝古老の話から＝』)。

果樹栽培が成功したのは、東京・横浜といった大市場に近接していたことが背景にあったことと、優良品種の発見に苦心された大師河原村の當麻長十郎(長十郎梨)、御幸村の高橋春次郎(早生長十郎梨)、大島村吉澤寅之助(伝十郎桃)、南綱島村の池谷道太郎(日月桃)ら篤農家のたゆまぬ努力の結実が大きかった。

続　く

シリーズ
歴史の中の女性像 9

その１　ナイチンゲールの世界（９）

小林　基男(柿生郷土史料館専門委員)

クリミア戦争とナイチンゲール

『タイムズ』誌は、その後米国でも同名の『タイムズ』誌が創刊されたことから、それぞれ『ロンドンタイムズ』『ニューヨークタイムズ』と名を改めます。また従軍記者として戦場からのレポートを贈り続けたラッセンル記者や『タイムズ』誌に対しては、軍幹部や軍支持の保守派から強い非難が浴びせられましたが、ラッセル従軍記に対する国民の支持は揺らぎませんでした。ラッセル記者は報じました。

ロンドンのコーヒーハウス
ここでも「タイムズを読みましたか」
が挨拶代わりでした。

「市民の皆さんは、この報告を読まれると、きっと驚かれるでしょう。戦場では薬も包帯も不足しています。その上ベッドも足りないので、負傷兵は藁の上や地面に寝かされているのです。こんな具合で、戦地では、負傷者に対して何ら適切な処置が施されていないのです。」

「戦地では、医師も看護士も、決定的に不足しています。戦地での傷病兵の扱いは、本当にひどい状態です。我が国の病院に比べると、フランスの病院の方がずっと優れているのです。フランスの戦時病院は、軍医の数も多く、さらに慈善会のシスターたちが数多く働いているのです。シスターたちは全員が優れた看護士なのです。」そしてラッセル記者は、こう締めくくりました。「我々にはなぜ慈善会のシスターがいないのか？」と。

ラッセル記者は、手当さえ受けることが出来れば、助かって再び戦場に戻れるかもしれない多数の傷病兵たちが、手当を受けることも出来ずに、いたずらに命を落としている現実を、ありのままに伝えたのです。こうした彼の戦地報告は、本国で大きな反響を呼びました。その結果が、前号で記した「タイムズを読みましたか」が挨拶代わりに使われるようになったのです。

軍人や保守派がいかに憤ってみても、隣国フランスの戦時病院に比べて大きく見劣りのするイギリスの戦時病院の現実は、紛れもない事実でした。実際イギリスには慈善会のシスターはいなかったのです。高名なエリザベス１世の父、ヘンリー8 世が、英国国教会を創設してカトリックを否定し、女性修道院を含むすべての修道院を閉鎖して、修道院領の一切を国有地にしてしまったため、慈善会は存続できず解散されていたからです。貧民救済は上流階級の婦人たちによる気まぐれな施しによるしかなかったのです。フローが疑問を感じた母たちの行為がそれでした。

しかし、事ここに至っては、英国政府としても放ってはおけません。世論の強い圧力を放置するわけにいきませんし、社交界もまた英国の名誉のために、それなりの訓練を受けた看護士隊の派遣を急ぐべしと、意見の一致を見ていたのです。時にアバディーン内閣では、フローを可愛がってくれていたパーマストン卿が内務大臣を、夫人と特に親しく交際していたシドニー・ハーバードが軍務大臣を務めていたのです。軍務大臣とは軍を直接指揮する陸軍大臣とは別で、軍の輸送や物資の調達など後方任務の一切を統括する役職です。『タイムズ』の記事をすべて精読したハーバード大臣は、看護士の一隊を現地に送り込むことを決断したのです。しかし問題がありました。隊長に相応しい人を見つけることが出来るかです。遠い異国の戦場に近い野戦病院で、怪我や病気の兵士を看護するのは大変な仕事です。まして看護士という仕事は、大変卑しい仕事と考えられていたイギリスです。看護士隊を率いる責任者を引き受けてくれる候補者など、そうあるはずがなかったのです。ハーバード大臣が思いついた適任者は、夫妻の友人であるフロー１人でした。彼は悩みました。懇意にしているとはいえ、超のつく上流階級の女性に、こんな危険な仕事を依頼してよいのだろうかと幾度となく自問した彼は、思い切ってフローに手紙を書きました。フローもまた『タイムズ』の記事を読み、傷病兵を看護し、かつ国家の役に立つことになる仕事は、まさに自分がやりたい仕事だと考えたのです。しかし、そのためには任半ばにしてハーレー街の病院の仕事をやめねばならないことで悩み、病院の理事を引き受けてくれているハーバード夫人に相談の手紙を書いたのです。ここにフローレンス・ナイチンゲールの名を、世界史に刻むことになるクリミヤ戦争への彼女の派遣が現実のものとなったのです。

続　く

祝　川崎市制誕生百年

小田急線の開通と柿生駅の誕生

柿生地域（旧柿生村）の川崎市編入が決まったのは、昭和 14 年（1939 年）です。編入に先立ち、小田急電鉄（当時は小田原急行鉄道）の新宿～小田原間が開通したのは、昭和 2 年（1927 年）のことでした。関東大震災がなければ、大正年間の内に開通していたのでしょうが、震災のために遅れ、鉄道の起工式が行われたのは、大正 14 年 11 月のことだったそうです。

路線は、新宿を起点に津久井道に沿って進み、小田原に至る 83.8km を一挙に敷設するという、当時としては非常に大胆で野心的な計画でした。

鉄道の建設には、用地確保が最大の問題ですから、地元の理解と協力を得ることが大切となります。地元との友好関係の構築がまずもって模索されたのです。柿生村の最後の村長を務められた飯塚重信さんは、当時森連之助村長の下で、村の助役を務めており、小田急電鉄の利光社長や担当重役の安藤氏に何度もお会いしては、協力を依頼されたと語っておられます。路線の用地に万福寺・上麻生・岡上で、延長 5km 近くにわたって数十名の地主さんの協力を得る必要があったのです。係りの方から 2 年余に亘って、地元に協力の要請が続き、その内容も土地所有者が誰か分からない土地があるとか、所有者名が数代前の方になっていて、相続権者が誰か分からないとか、現地の地図が公図と合致しないなど、村長と助役さんの出番は尽きなかったようです。

小田急の用地買収価格は 1 坪 1 円。柿生地域で 4,400m、岡上地域で 600m。この区間のほとんどが水田だったので、全て埋め立て工事が必要でした。

最後に駅舎をどこに作るかが問題でした。柿生地域も鶴川地域も村人の人口は少ないため、両地域の中間点（一本松付近）に一駅だけ作るというのが小田急側の意向でした。この案には、柿生も鶴川も一致して反発。小田急側に揃って申し入れしたところ、駅用地を地元が提供してくれるなら、二駅作っても良いとの返事が得られ、上麻生の中央付近を候補地に定め、約一千坪を地元負担で買収し、駅舎用地として小田急に提供すると決めたのです。買収価格は坪 3 円とし、総額 3 千円です。この総額を受益と人口に応じて、不公平にならないよう十分に注意しながら、別表のように各地域に割り振ったのです。柿生駅に近い地域は高く、世帯数と推定利用人口などを加味し、岡上は鶴川駅利用もあるから、真福寺は近いが山越えの難儀があるからと、軽減措置がとられた結果、上麻生、片平、栗木、黒川の 4 地域で 3,000 円の 9 割弱を賄ったのです。

こうした苦労を経て、小田急小田原線は 1927 年の 4 月 1 日に開業。当初の柿生～新宿間の運賃は 40 銭、所要時間は 45 分だったそうです。

飯塚重信『柿生村と私の歩み』より

柿生駅用地買収代金各地区負担割当一覧

地区名	金額	地区名	金額
上麻生	1,500円	万福寺	50円
片平	750円	早野	50円
栗木	150円	王禅寺	40円
黒川	200円	真福寺	40円
五力田	50円	下麻生	70円
古沢	50円	岡上	50円
		合計	3,000円

昭和 30 年頃の柿生駅

柿生郷土史料館催物案内　【参加自由、入場無料】

◎開館日　：5月12・19・26日（日曜日）　6月1・15・22・29日（土曜日）
◎開館時間：午前１０時～午後３時

第 22 回特別企画展

祝川崎市制誕生百年！

写真で辿る川崎市の百年

期間　2024 年 6 月～12 月
会場　柿生郷土史料館特別展示室

1939 年の川崎市誕生から現在までの川崎市変貌の様子を、現在までに蓄積された膨大な写真から、史料館の大勢の支援委員の目で選んで、皆様に見ていただく企画展です。

今しばらくお待ちください。

第 92 回カルチャーセミナー

教育の歩み　その１　学校誕生への道

講師　小林基男　柿生郷土史料館専門委員
日時　6 月 22 日（土）　13 時 30 分～15 時 30 分

私も皆さんも「学校」と聞くと、すぐに同年齢の集団で学級を構成し、同年齢の仲間と共に学んでいく世界を思い描いてしまいますね。自分もそうだし、兄弟姉妹は勿論、両親や祖父母もまた、そういう学びを体験してきたのですから、当然と言えば当然です。しかし、同一年齢で学級を構成し、その学級を年齢に応じて学年として分けると言う教育方法は、そんなに古くから存在したわけではありません。教育の場として学校が生まれた当時は、教場はあっても学級教室（クラスルーム）はなかったのです。いったいどのような変遷を経て、現在のような学校システムが登場したのか。年に 1 回か 2 回のペースで、語らせていただきます。お付き合いいただけると幸いです。